

少子高齢化・地域活性化対策特別委員会

会議記録（第3号）

令和6年5月8日

福島県議会

## 1 日時

令和6年5月8日（水曜）

午前 10時00分 開会

午前 11時52分 閉会

## 2 場所

第二特別委員会室

## 3 会議に付した事件

- (1) 少子高齢化対策について
- (2) 過疎・中山間地域等の振興について
- (3) 上記(1)及び(2)に関連する事項

## 4 出席委員

委員長	佐久間 俊 男	副委員長	江 花 圭 司
副委員長	高 野 光 二	委 員	佐 藤 憲 保
委 員	宮 川 えみ子	委 員	高 官 光 敏
委 員	真 山 祐 一	委 員	水 野 透
委 員	鳥 居 作 弥	委 員	佐 藤 徹 哉
委 員	渡 部 英 明	委 員	吉 田 誠
委 員	木 村 謙一郎		

## 5 議事の経過概要

（午前 10時00分 開会）

佐久間俊男委員長

出席委員が定足数に達しているので、ただいまから少子高齢化・地域活性化対策特別委員会を開会する。

初めに、会議録署名委員の選任について諮る。

会議録署名委員は、委員長指名で異議ないか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

佐久間俊男委員長

異議ないと認め、水野透委員、鳥居作弥委員を指名する。

次に、本日の会議運営について諮る。

本日は調査計画に基づき、参考人として執行部より付議事件に関連し県が策定した目標や方針等について、【資料1】のとおり説明を求め、これらに対する質疑を行う。

なお、初めに付議事件1「少子高齢化対策について」に関する説明・質疑の後に、執行部の交代を行い、付議事件2「過疎・中山間地域等の振興について」に関する説明・質疑を行う。

次に、次回委員会の開催について諮りたいと思うがいかがか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

佐久間俊男委員長

異議ないと認めそのように進める。

なお、本日の会議には、説明のため、復興・総合計画課長、地域振興課長及び関係部局の職員の出席を求めている。

佐久間俊男委員長

それでは、本日の議事に入る。

ただちに復興・総合計画課長の説明を求める。

復興・総合計画課長

(別紙 【資料2-1及び2-2】により説明)

佐久間俊男委員長

説明が終わったので、質疑に入る。質疑については、只今説明があった事項及び説明資料に記載ある範囲内で願う。何かあるか。

佐藤憲保委員

福島県人口ビジョン及びふくしま創生総合戦略等において、各分野で目標や成果指標を定めて取り組んでいることは理解しているが、計画や目標を作って満足して

しまっているように感じる。2点確認したい。

1点目は、若い世代の方々に発信している情報の内容についてである。「本県で子供を産みたい。」と多くの若者に思ってもらうため、本県の魅力等を発信していると思うが、他県と比較して本県が優れている点と劣っている点をしっかり分析・検証しているか確認したい。

2点目は、本県の魅力等を若い世代の方々に発信する方法についてである。

第二次世界対戦後における昭和20年代の日本人の平均年齢は約27歳であり、戦後、劇的な経済成長及び復興を成し遂げたのは、20代の若い世代であることから、人口減少のような難しい課題について成果を上げるためには、若い世代の力が必要であると考えます。

現実に子育てをしている方や、これから結婚し子供を作っていく若い世代の方々に本県を選んでもらうための情報発信等を、どのように進めているか聞く。

復興・総合計画課長

委員が指摘するとおり、若い世代の方々がどのような認識を持っているか把握することは重要である。就職等に関しては、昨年度から「感働ふくしまプロジェクト」を商工労働部が実施し、本県企業の魅力等が若い世代の方々に届くよう情報発信を始めたことに加え、小中学生向けに職場見学や職場体験等を実施している。

また、これまでの県の取組をしっかりと検証することは非常に重要である。

今回の福島県人口ビジョンの更新及び次期ふくしま創生総合戦略の策定にあたっては、本県から転出した若い世代の方々の考えを明らかにするためアンケートを実施し、分析結果を新たな政策へ反映させたいと考えている。

一人でも多くの方々に情報を届けられるようしっかりと取り組んでいきたい。

佐藤憲保委員

出生率の低減や若者の県外流出を示す様々なデータがあるが、それらを見てただ落胆してはいけぬ。

さいたま市の副市長に聞いた話だが、さいたま市は一時的に人口が急激に増加したが、次第に学校や保育所等が足りなくなり、住みやすい条件が揃っている近隣の市町村へ人口の拡散が始まっているらしい。

このように人口が集中していた地域から若者が流出している現実を踏まえ、県外

にも目を向けて広く情報を収集・分析し、市町村と連携しながら的を絞った政策をタイムリーに進めてほしい。

#### 宮川えみ子委員

本県の出生率は全国と比べて高い水準であったが、最近は厳しい状況が続いており、このことの要因は大きく2つあると考えている。1つ目の要因は、東日本大震災に伴う原発事故の影響もあるが、何より農業従事者の経済状況が悪化したことであり、早急に農家への支援を強化する必要があると考える。

2つ目の要因は、住宅政策がきちんとなされていないことであると考えている。例えば、「首都圏は賃金が高いが住宅価格等も高い」、「地方は賃金が低いが住宅価格等も低い」とイメージする方が多いと思うが、実態は異なると思う。

地方における家賃等の水準は低いとは言えず、結婚して家を出ることが難しい状況を作り出しているのではないか。

また、高校の統廃合及び小中学校の統廃合などを進めておきながら、人口減少に歯止めをかけたいという県の姿勢は、一貫性がないと言わざるを得ない。

私の地元であるいわき市遠野町は、小中学校が統廃合され高校がなくなり、他の自治体へ通学するためのバスもない状況にあり、このような環境で子供を育てたいと考える若者はいるのだろうか。

一つ一つの施策が、人口減少の問題にどう関連するかを見ていかなければならない。

新たな福島県人口ビジョン及びふくしま創生総合戦略の策定に、どの程度若い女性関わっているか聞く。

#### 復興・総合計画課長

委員が指摘した学校の統廃合や公共交通の廃止については、人口減少が絡んでくる問題であると考えられ、人口が減少すれば地域の活力は失われ、地域経済も縮小する悪循環に陥っている状況にあると考えられる。

全国的に人口が減少している中で、本県だけ人口を増加傾向に戻すことは難しいかもしれないが、少しでも人口減少のスピードを緩めたいとの思いで、新たな福島県人口ビジョン及びふくしま創生総合戦略の策定に取り組んでいる。

ふくしま創生総合戦略の策定については、有識者会議のメンバーの約半数が女性である。また、今後はアンケート調査に加え、ワークショップ形式で対面による調

査も予定しており、若い女性をはじめ、様々な世代の方々の意見をいただいて、新たなふくしま創生総合戦略の策定等に生かしていきたい。

宮川えみ子委員

アンケート調査を実施するだけでなく、若い女性が直接議論の場に参加することも重要と考えるが、有識者会議のメンバーに若い年代の女性は含まれているか。

復興・総合計画課長

有識者11名のうち6名が女性であり、それぞれ現役で活躍している方々である。

宮川えみ子委員

近年、社宅等がなくなり、単身の若者が市営住宅に入ることが難しい状況であることから、県外へ転出する若者が多いように感じる。

結婚して子供を育てるため、住宅は欠かせないものであると思うが、県は住宅政策についてどう考えるか。

復興・総合計画課長

若い女性の県外流出により、子供を産むことができる女性が減少していることは大きな問題である。

委員が指摘する子育ての環境づくりを進めるとともに、雇用対策を充実させることで若い女性が県内に留まれるよう取組を進めたい。

宮川えみ子委員

県の考えも理解しているが、県が労働条件を直接的に向上させることは難しいことから、雇用対策より住宅政策の方が効果的ではないか。

復興・総合計画課長

先ほど佐藤委員から指摘があったとおり、効果的な政策を進めていくため、広く情報を収集・分析し、県内外の若者の希望や考え方を明らかにしたいと考えている。

その分析結果をもとに、若い世代の方々が真に求めている政策を、効果的に実施していきたい。

真山祐一委員

働く場と報酬があることによって生活が成り立つことから、「しごとづくり」が最も重要な取組であると考えている。

人手不足を感じている企業が多いこと、雇用保険の被保険者数が増えていること

及び就業者数が減少傾向であることについて説明があったが、このことについて県はどのような分析をしているか聞く。

復興・総合計画課長

先ほど若い世代に対してアンケート調査を実施すると説明したが、それに加えて企業の経営者に対してもアンケート調査を実施する予定である。

それらの結果等を踏まえ、今後より詳細な分析をし、エビデンスに基づいた政策を効果的に進めていきたい。

真山祐一委員

若い世代に対するアンケート調査については、「就職を機に県外へ転出した若者を県内に帰ってきてもらうため」、または「県内で生活する若者の県外転出に歯止めをかけるため」のように、目的を整理した上で、しっかりターゲットを絞って進めてほしい。

鳥居作弥委員

東京都などの首都圏から距離が近いこともあり、本県における人口の社会減少は、全国的に見て非常に高い水準にある。

先ほど人口が集中した地域から生活の利便性が高い通勤圏・通学園へ人口が流出している動きがあると指摘がされていたが、本県も首都圏の通勤圏・通学園となるポテンシャルがあると考えます。このことを生かして人口を流入させるような取組をしているか。

復興・総合計画課長

地方からリモートワークで出勤することが可能となった状況を生かして、「転職なきふくしま暮らし」事業を進めている。引き続き当県の魅力を広く発信して、移住者を増やす取組を進めていきたい。

佐久間俊男委員長

他にあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

佐久間俊男委員長

以上で質疑応答を終了する。

執行部を交代するため、暫時休憩する。

(午前 11時15分 休憩)

(午前 11時20分 開議)

佐久間俊男委員長

再開する。

ただちに地域振興課長の説明を求める。

地域振興課長

(別紙 【資料2-3】により説明)

佐久間俊男委員長

説明が終わったので、質疑に入る。質疑については、只今説明があった事項及び説明資料に記載ある範囲内で願う。何かあるか。

真山祐一委員

昭和村や磐梯町など、過疎・中山間地域の中にも消滅可能性都市に入らずに若年女性の割合が高い自治体があることについて、どのような分析をしているか聞く。

地域振興課長

それぞれの自治体が地域資源を生かした取組を進めた成果が出たものとする。

県としては、引き続き市町村や集落単位での住民の取組を支援し、過疎・中山間地域の振興に当たっていきたい。

真山祐一委員

同様に消滅可能性都市に入らなかった大玉村や西郷村などは、地理的要因が大きいと思われるが、自治体によって条件などが異なることから、細かな分析をし、過疎・中山間地域における施策の選択と集中を検討してほしい。

江花圭司副委員長

当特別委員会では、中間意見を取りまとめ、知事へ申し入れることを検討している。

過疎・中山間地域振興戦略における令和5年度の取組の実績や結果等を、議会等へ説明する時期等を聞く。



地域振興課長

前年度の実績等については、条例に基づき 9 月定例会で報告させていただいている。

それより早い次期に報告が必要であれば、議会事務局と調整し説明させていただきたい。

宮川えみ子委員

過疎・中山間地域の基幹産業は、林業や農業などの第一次産業である。

林業の取組の現状について聞く。

佐久間俊男委員長

地域振興課で回答できる範囲で答弁願う。

地域振興課長

宮川委員が指摘するとおり、第一次産業は過疎・中山間地域における主要産業であると考えている。

林業については、県の農林水産部が令和 4 年に「林業アカデミー」を開校し、担い手の確保・育成を進めており、第一期生 14 名は全員就業したと聞いている。

当課としても、サポート事業を通じて、引き続き市町村等地域主体の取組を支援し、林業の人材確保・育成に取り組んでいきたい。

佐久間俊男委員長

ほかにあるか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

佐久間俊男委員長

ほかになければ、質疑応答を終了する。

次に、次回委員会の開催について諮る。

次回第 4 回委員会は、調査計画に基づき、6 月定例会の議事日程により、【資料 3】のとおり、付議事件 1 「少子高齢化対策について」の調査事項 (1) 「少子化対策について」及び調査事項 (2) 「高齢化対策について」、執行部から説明を求め、質疑応答を行うこととしたいと思うが、どうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

佐久間俊男委員長

異議ないと認め、そのように取り運ぶ。

以上で、本日の少子高齢化・地域活性化対策特別委員会を閉会する。

(午前 11時52分 閉会)